

学生の確保の見通し等を記載した書類
(家政学部 生活デザイン学科)

目 次

(1) 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況	
① 学生の確保の見通し	
ア. 定員充足の見込み	P. 2
イ. 定員充足の根拠となる調査結果の概要	P. 3
ウ. 学生納付金の設定の考え方	P. 5
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	P. 5
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的および教育研究上の目的 (概要)	P. 5
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	P. 6

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

我が国の18歳人口は、減少傾向が続くが、令和2(2020)年から令和14(2032)年までの12年間でさらに14万名ほど減少し、人数として102.3万名ほど、率にして87.7%ほどになると予測される。九州・沖縄地方における18歳人口の減少もその例に漏れず、令和14(2032)年には令和2(2020)年に比して人数で1万名程度の減少、率にして93.2%ほどに低下するとの推計が出ている。しかしながら、この間の18歳人口の推計において、本学が位置する福岡県は、九州・沖縄地方の中でも沖縄県に次いで特異な傾向を示す。その減少率は、全国レベルのマイナス3.8%ほどにとどまると予測されるのである(資料1)。もとより、九州女子大学2学部3学科の入学者325名(平成29(2017)年度から令和3(2021)年度までの5年の年平均)において、九州・沖縄地方8県の出身者が91.4%を占めているが、68.9%の学生は福岡県の出身であり、その比率は近年徐々に高まってきているところである。【表1】

九州女子大学 入学者の割合(表1)

県名	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	平均
福岡	251	250	231	199	190	224
佐賀	9	3	8	6	7	7
長崎	10	8	11	5	8	8
熊本	9	3	12	8	15	9
大分	10	18	21	16	11	15
宮崎	13	12	5	11	15	11
鹿児島	6	12	12	16	7	11
沖縄	9	5	12	17	16	12
山口	17	18	27	18	18	20
他	7	7	10	8	10	8
総計	341	336	349	304	297	325
九州沖縄の割合	93.0%	92.6%	89.4%	91.4%	90.6%	91.4%
福岡の割合	73.6%	74.4%	66.2%	65.5%	64.0%	68.9%

また、家政学部生活デザイン学科の基礎となる家政学部人間生活学科の志願状況の推移を見ると志願者増加の傾向が見られる。【表2】

九州女子大学 家政学部人間生活学科 志願者等の推移(表2)

年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	平均
志願者	76	58	64	58	51	61
入学者	46	41	37	43	37	41

本学が位置する北九州市は、人口減少率が政令指定都市の中でも高い水準にあり、毎年約 5,000 人の人口が減少している。北九州市の人口減少が続く状況において、北九州市は、地方創生のより一層の充実・強化に取り組んでいくため、地方創生の成功モデル都市を目指し、女性が働きたい、働くことができると思える環境づくりや、ダイバーシティ経営モデルの構築、結婚・出産・子育て・教育までの一貫した支援に取り組んでいる。また、時代に合った魅力的な住みよいまちづくりを目指して、都市のリノベーションの推進や「人にやさしい元気な街づくり」として、子どもや若者が健やかに成長するまちづくりにも取り組んでいる。

一方、リクルート進学総研による「第 9 回高校生と保護者の進路に関する意識調査」(2019)によれば、「教師」という職業は、高校生全体において 1 位、男女別では、男女ともに 2 位である。前回調査(2015)の高校生の人気職業の結果でも、高校生全体において 1 位、男子 2 位、女子 3 位であったことを考え合わせると、高校生の将来像としての「教師」への魅力は、一定程度あると考えられる。(資料 2)

これまで九州女子大学家政学部人間生活学科において、衣・食・居住環境の各領域から科学的に解明できる素養を身に付けた人材の養成を行ってきた。家庭、地域、企業、行政と協働して中学校教諭・高等学校教諭(家庭)、地方自治体や企業などといった組織において、人間生活とその環境に関する専門知識を有し、生活者の視点で教育や地域社会における課題を解決しつつ活躍する職業人が必要であることから、生活デザイン学科は、家政学を基盤としたこれまでの教育体制を維持しつつ、職業人として教育や地域社会に携わる人材を養成するという観点を重視した学科である。また、教育の充実や地域創生に向けた取り組みを推進する北九州市において教育研究活動を行っている本学は、地域の人材養成のニーズに応えるべく、北九州市と連携、協力関係を強化していきたいと考えている。これらのことは、大学入学志願者に対して、強い訴求力を持つものであると認識する。

本学は、以上の認識について、第三者機関による入口調査「九州女子大学家政学部生活デザイン学科(仮称)設置構想についての高校生アンケート調査」(令和 4(2022)年 2 月実施)を行って検証した。その調査結果をまとめることで、本学科における入学定員 60 名(収容定員 240 名)の充足が十分に可能であることを示す(資料 3)。

イ. 定員充足の根拠となる調査結果の概要

この度実施した「高校生アンケート調査」の目的は、本学が令和 5(2023)年 4 月に設置を予定している生活デザイン学科の学生確保の見通しを、第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)による高校生対象のアンケート調査を通して測ることにあった。

なお、「高校生アンケート調査」の概要は以下のとおりである。

- 調査期間：令和 3(2021)年 11 月～令和 4(2022)年 1 月
- 調査対象：令和 3(2021)年度現在の高等学校 2 年生女子

- 調査方法：本学が位置する九州・沖縄地方の県および山口県に所在し、本学への入学者数が多い高等学校 58 校に依頼した。各校の教職員の監督の下でアンケートを実施し、アンケート用紙はその場で回収した。
- 調査内容：無記名、選択肢式で 7 問。質問事項は、回答者の基本情報（性別、居住地、希望進路、関心のある学問分野）、設置構想中の本学科への受験・入学意向、もしくは受験しないを選択した理由。
- 有効回答件数：3,650 件（回収件数：5,714 件）

「高校生アンケート調査」の結果報告によると、高等学校卒業後の進路として「進学」と回答した者は 3,135 名（85.9%）であった。「関心のある学問分野」を尋ねたところ、回答数の多い順から「人文科学（心理学、文学、史学、哲学、外国語学など）」の 1,121 件（30.7%）、「教育学・保育学」の 972 件（26.6%）、「保健衛生学（看護学、リハビリテーション医学など）」の 898 件（24.6%）、「芸術学（音楽、デザイン、美術など）」の 848 件（23.2%）、「家政学（生活科学、食物学、住居学、被服学など）」の 634 件（17.4%）と続いている。「家政学」は、上から 5 番目に位置しており、本学を志望する可能性の高い高校 2 年生にとって、相対的に魅力のあるものとして映っていることがわかる。

「高校生アンケート調査」ではその上で、本学が設置を予定している家政学部生活デザイン学科、人間科学部児童・幼児教育学科、人間科学部心理・文化学科（いずれも仮称）の概要を示し、本学科への受験意欲ならびに入学意欲も尋ねた。

本学科を「受験したいと思う」と回答した者は、調査対象者 3,650 名のうち 153 名（4.2%）であった。また、「合格した場合、入学したい」と回答した者のみで本学科が予定する入学定員 60 名の 1.1 倍超となる 70 名に達しており、さらにこれ以外に「併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者 83 名を加えると受験希望者全員の 153 名となり、この数値は本学科の入学定員 60 名の 2.5 倍を超えている。このように、本学科を「受験したいと思う」と回答した全員が「合格した場合、入学したい」または「併願大学等の結果によっては入学したい」と回答している事実からすると、本学科への入学者は適切に確保することが可能である。

一方、本学が設置を構想している上述の 3 学科を「受験したいと思わない」と回答した者 2,976 名にその理由について回答を求めたところ、「興味・関心のある学科ではないから」が 1,103 件（37.1%）、「短期大学・専門学校への進学を希望しているから」が 746 件（25.1%）、「国公立大学への進学を希望しているから」が 654 件（22.0%）といった回答が示された（いずれも複数回答）。ただし、「本学科に興味・関心はあるが、さらに詳細を知った上で検討したいから」との回答も 83 件（2.8%）示されたことを考慮すると、今後の広報・募集活動を通じて、本学科への志願者を確保する余地は十分残されていると判断できる。

以上の「高校生アンケート調査」の結果より、本学科における入学定員 60 名（収容定員 240 名）の充足には特段の問題はないと推測される。

ウ. 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、本学の財政状況、収支予想、他大学学生納付金との比較および総合的な検討を重ねて設定される。既設の家政学部人間生活学科の令和4年度の初年度学生納付金は、合計1,184千円（入学金280千円、授業料674千円、施設設備資金230千円）である。これを踏まえ、生活デザイン学科の初年度学生納付金は、同額の合計1,184千円（入学金280千円、授業料674千円、施設設備資金230千円）に設定する。また、生活デザイン学科と競合する近隣の大学の学部・学科として、活水女子大学健康生活学部生活デザイン学科および安田女子大学家政学部生活デザインが挙げられる。生活デザイン学科の初年度学生納付金の額は、これらの大学の各学科の初年度学生納付金と比較しても、ほぼ平均的なものであると考えている。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

高校生を中心とする大学受験生、ならびに地域社会全般に対して、本学科の特色について、以下の各種の広報活動を展開する。

具体的な活動としては、設置構想している3学科の概要を紹介したリーフレット30,000部を作成し、オープンキャンパス、高校進路部教員対象の進学指導者懇談会、高校での進路説明会、各種合同入試説明会・ガイダンスにおいて配布する予定である。また、高等学校の進路部を訪問し、生活デザイン学科の設置趣旨や理念、求める学生像について直接説明することも予定している。併せて、20,000部作成予定の『九州女大学大学案内2023』にもその詳細を掲載し、広報活動に利用する計画を立てている。

この他、大学ホームページはもとより、新聞およびテレビを利用して広報活動を展開する予定である。

なお、広報活動においては、全てにおいて「設置届出申請中」であることを明示し、学科設置計画が変更される可能性があることも併せて伝えるよう細心の注意を払う。

以上のような多角的な広報活動を全学的に展開し、学生を確実に確保するよう万全の態勢を整えている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的および教育研究上の目的（概要）

これまで、九州女子大学家政学部人間生活学科では、共生・健康・福祉の視点から、教育・研究を行い、各専門分野の知識・技術と幅広い教養を身に付け、社会に貢献できる豊かな人間性と倫理性を備えた人材を養成するという教育目標のもと、人間の生活を、共生と再生の観点から、生活経営、情報を基礎として、衣・食・居住環境の各領域から科学的に解明できる素養をもった人材の養成を行ってきた。

如上の人材養成の観点は今後も継続すべき観点であるが、人間生活とその環境分野に関する教育を実践することに加え、高い倫理性をもって自己の良心や社会のルールに従い、生活者の視点で家庭や学校、地域社会の課題を解決することができる幅広い職業人を養成することも求められる。

上記のような人材ニーズに応じて、このたび設置する生活デザイン学科では、以下のような人材を養成する。

- (1) 幅広い教養、ならびに人間生活とその環境分野についての専門領域の知識と技能を身に付け、生活者の視点で豊かな生活をデザインすることができる教育者・企業人を養成する。
- (2) 高い倫理性をもって自己の良心や社会のルールに従い、学校教育および食分野・住分野に関連する各業界で主体的に貢献できる能力を身に付けた教育者・企業人を養成する。
- (3) 多様な考えを有する人々と協働して、豊かな生活を実現するという視野を有して、家庭や学校、地域社会における課題を生活者の視点で解決しつつ活躍する教育者・企業人を養成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

生活デザイン学科が養成する人材が社会的・地域的な人材需要の動向と関連しているか否かを明らかにするために、第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）による出口調査「九州女子大学家政学部生活デザイン学科（仮称）設置構想についての人材需要アンケート調査」（令和4（2022）年2月実施）にて、主に一般企業を対象とした「人材需要アンケート調査」を実施した。その調査結果をまとめることで、本学科卒業生の一般企業等における採用可能者数が、本学科1学年の定員60名を十分に上回る数値であることを示す（資料4）。

この度実施したアンケート調査の目的は、本学科の卒業生の社会的な人材需要の見通しを、学外の第三者機関による企業等を対象としたアンケート調査を通して得ることであった。

なお、同調査の概要は以下の通りである。

- 調査期間：令和4（2022）年1月～2月
- 調査対象：本学科を含む新設3学科卒業生の採用が見込まれる一般企業・団体1,049箇所
- 調査方法：本学卒業生の採用実績を基に本学科の卒業生の採用が期待できる企業・団体に依頼した。依頼は、企業・団体の人事・採用担当者に書面で行い、アンケート用紙を郵便で回収した。
- 調査内容：選択肢式12問、記述式1問。主な質問事項は、回答者の基本情報（主

業種、従業員・職員数、所在地)、設置構想中の新学科の社会的ニーズ、卒業生の採用意向、新学科に期待する点等。

○ 有効回答件数：280 件（回収率 26.0%）

同調査の結果報告によると、回答が得られた 280 件の企業・団体の業種で最も多かったのが「公務」で 147 件（52.5%）、次いで「医療、福祉」で 24 件（8.6%）、三番目が「その他のサービス業」で 18 件（6.4%）であった。回答した企業・団体の所在地は、最多が福岡県で 144 件（51.4%）、二番目が鹿児島県で 32 件（11.4%）、三番目が熊本県で 26 件（9.3%）であった。

「人材需要アンケート調査」ではその上で、本学が設置を構想する生活デザイン学科の概要を示しつつ、本学科が養成する人材の社会的ニーズについて、また本学科の卒業生の採用意向について尋ねた。

設問「九州女子大学が設置構想中の「家政学部生活デザイン学科（仮称）」が養成する人材は、社会的ニーズが高いと思われませんか。」に対して、「ニーズは極めて高い」との回答が 9 件（3.2%）、「ニーズはある程度高い」が 131 件（46.8%）と、この両者の回答が全体の半数を占めており、本学科卒業生の社会的ニーズは一定程度確保されていると考えられる。

また、設問「九州女子大学が設置構想中の「家政学部生活デザイン学科（仮称）」を卒業した人材を、採用したいと思われませんか。」に対して、「採用したい」との回答が 45 件（16.1%）であった。そこで、この設問に「採用したい」と回答した企業・団体に採用可能と思われる人数を尋ねたところ、明確な回答を得られたのは 86 名となっており、予定する入学定員を超える結果となった。

以上の調査結果から、特に本学科の人材養成に対する一般企業・団体のニーズ認識および採用意向を踏まえると、前記の本学科の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」が、社会的および地域的な人材需要の動向等を適切に捉えていると推測される。

これらのことから、本学科の設置は、広く一般企業・団体の各種の職務において大きく貢献できるものであり、同時にその貢献が社会的・地域的に期待されていると判断される。

以上